



第 13 号
 京都教育大学教育学部
 附属桃山中学校同窓会
 同人誌
 発行人 会長 岡本茂樹
 京都府京都市山科区山科伊福部東町16
 TEL 075-611-0264
 FAX 075-611-0371

【ごあいさつ】



桜のたよりが聞かれる季節となりました。皆様におかれましては、ますますご清祥にて活躍の事と心からお喜び申し上げます。日頃は、附属桃山中学校並びに本同窓会の発展のために何かと支援ご協力賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、日本社会は、底の見えない景気の低迷と言いつつ、いろいろな閉塞感に覆われ、一方、国際社会においても、アメリカにおける一昨年の9・11テロ事件以来、北朝鮮問題、イラク問題と、世界中が、21世紀は平和の世紀「21世紀」か、いつ20世紀のような「戦争の世紀」に逆戻りしてもおかしくない状況で、内外を問わず、先行きの不透明感が一段と強まってきている今日この頃です。

このような中で、今、教育改革という言葉が声高に叫ばれておりますが、私たちの大きな関心事として大学改革、特に教育系大学の統廃合問題や独立行政法人化問題、そしてこれに伴う附属小中学校の存続問題が挙げられます。今回の会報「つゆ草」では、関係する識者やOBの皆様から投稿頂き、附属桃山中学校の特

来についてお互いに情報を共有できればと、特集を組んで頂いたところです。また、3年ぶりに開催いたします「つゆ草の集い」では、現在、京都大学大学院理学研究科教授で哲学博士の瀬戸口烈司さん(10期)の、「サル社会、ヒトの社会」と題した講演、そして卒業生で、クラシック音楽の世界で活躍中の皆様と奥谷忠彦先生の全面的な協力により、まずコンサートなど、楽しい催しを企画しておりますので、皆様奮ってご参加ください。

さて、私は、辻頭会長よりバトンタッチを受け、二期六年間にわたり、伝統ある附属桃山中学校(先日の卒業式で、55期131人が私たちの仲間入り、合計で6672人)の同窓会長を務めさせて頂きました。この一重にお支え頂いた歴代の役員の皆様、また、会員の皆様のおかげと心から感謝しております。先日の理事会、評議員会で次期会長に14期の竹村氏が選任されました。私同様よろしくお願ひ申し上げます。

最後にになりましたが、会員の皆様、そして我が附属桃山中学校や同窓会の限らない発展を祈念致しまして「ごあいさつ」とさせて頂きます。

2003年3月吉日
 附属桃山中学校同窓会
 会長 岡本茂樹(12期)

【次期会長ごあいさつ】



2期6年間にわたる任期を5月に終えられる岡本会長の後、6月より会長をお引き受けることになりました。総会を3度も主催されたのは、大変な苦勞であったと思います。ただそれも、附属中学に対する思いがあったからこそできたことなのでしょう。苦勞なものでした。

卒業生の世代的幅も、いぶん開いてきました。同窓会が卒業生にとって、同じ同じ感覚で受け止められているものではないでしょうが、何時か振り返ってみれば旧友と集えることも、新しい出会いがある場所がある、そんな場所を提供するのも一つの役割なのかもしれないと思っております。多くの卒業生に参加して下さるために、同窓会の活動をもっと多くの卒業生に伝えたい。同窓会の運営等についての広報活動をどうするか、同窓会の存在を再認識してもらえよう、情報提供の方法等についても今後の課題として検討していきたいと考えています。微力ながら精一杯努力いたしますので、「ご指導」「協力のほど」よろしくお願ひいたします。

竹村 一志(14期)

つゆ草の集い 京都教育大学教育学部附属桃山中学校同窓会総会

- とき
2003年5月24日
(土曜日)
午後3時 受付開始
午後4時 開催
- ところ
センチュリーホテル
JR京都駅東隣
- 会費
社会人 10,000円
大学生 6,000円
高校生 3,000円

ープログラムー

- 講演
京都大学大学院理学研究科教授・哲学博士
瀬戸口 烈司(せとぐち たけし)さん(10期)
「サル社会、ヒトの社会」
サル社会では、末子優位の法則とあって、兄弟姉妹のあいだでは、年下ほど順位が高くなる。兄や姉が優位なヒトの社会とは、基本構造がちがうのである。
- イベント
卒業生によるコンサート 奥谷先生による企画
出演予定者(音楽・ピアノ・オーボエ・フルート)
柴田 道生(9期)
夏目久子・文殊義之(10期)
藤田康子(12期)
下元富紀子・黒田千賀子(13期)
中野 勇男(14期)
横井省春(15期)
吉田豊(28期)
福田瑞子(35期)
ビンゴゲーム など

皆様の多数のご参加を心より
お待ちしております。

※ 出欠のお返事は同封葉書で4月15日までお願いいたします。
 (注) 出席のご返事を頂きながら、当日ご欠席されました際には、会費をご負担頂く場合もございますので、何卒ご了承くださいませ。

「同窓会では運営のための寄付もお受けしております。ご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。」

大学の再編と 附属桃山中学校

国立大学法人法の 概要と考え方

平成11年の閣議決定以来話題となり、その実施方法について様々な議論されてきた、国立大学のいわゆる独立行政法人化が、現在審議中の国会でいよいよ「国立大学法人法」として陽の目を見ることになりました。我が国が母校と関係が深い京都教育大学も、当然その中に含まれることになるので、法案の概要と考え方についてご報告しておきましょう。

国立大学の法人化とは言うまでもなく、国立大学を国の組織から切り離し、大学自身の責任で運営する独立した機関にするものです。そこに共通する原理は、競争原理の導入であり、個性豊かな大学が生まれるための基盤作りであり、さらには大学を地域や社会に開かれたものにするための改革です。このために、学長と学外理事半数以上を含む理事によって構成される「役員会」が法人

とに作られ、自律的な運営を行うこととなります。

現国会で審議されているのは、法人化のための法的な枠組みの整備であって、実際の法人化は平成16年4月に始まることになっています。大学が、学生からも地域社会からも高く評価されて発展を遂げるかどうかは、むしろ法案が成立した後の改革への取り組みの姿勢にかかっているといえます。京都教育大学も、近隣の京都工芸繊維大学、滋賀大学、滋賀医科大学などとともに、新しい大学に生まれ変わる構想もあると聞きます。われわれ同窓会もこの問題をもみなで考えてみようではありませんか。

元文部省大臣官房審議官

(初等中等教育局担当)

中島章夫



変わる京都教育大学と 附属学校

平成16年度からすべての国立大学は「国立大学法人」として新しく出発します。簡単に言いますと、国立大学が文部科学省の直営店からフランチャイズ店になるということです。したがって、これまでのように文部科学省の指導のもとに行われていた大学経営は、それぞれの国立大学が自分で行っていくこととなります。それに伴って、予算も大学の社会における貢献度などの評価によって、配分が査定されることになりそうです。つまり、社会との関連の中で、個性ある大学づくりをしていかなくてはなりません。

そのためには、今の大学の現状を適切に評価し、社会への貢献を考慮して何ができるかを設定し、改善するという自己評価能力が問われます。つまり、大学は自分で、Plan(計画) - Do(実行) - Check(評価)を繰り返すことによつて、個性ある大学が変わっていくかなくてはならないわけです。また、それだけではなく、社会的な評価を得るために、大学はどのような教育と研究をしているのか、社会にどれだけ貢献しているのかを、納税者である国民に説明する責任(アカウンタビリティ)を負うこととなります。本学では、学生に対して教員になるためにどのような教育をしているのか、現代教育の課題について、大学としてどのように取り組んでいるかを公表する必要があるのです。

このような状況の中で、附属学校も当然、大学との連携をとりながら、例えば、小中一貫、中高一貫教育などの個性的な学校づくりが期待されます。とりわけ、中学校は義務教育の最終段階として、あるいは高校への橋渡しとして大事な時期といえます。そのためには、さまざまな分野で活躍の卒業生の方々から、これからの附属中学のあり方に対するご意見を頂戴して、特徴ある学校づくりにご協力頂ければ、ありがたく存じます。

京都教育大学教授
杉本厚夫(大学再編担当)

大学の動向と 附属学校の現状

「大学が大きく変わるようだが、附属はどうなるのか？」と、最近同窓会役員の方々などからよくお尋ねがあります。しかし、結論的に申し上げまして、まだ不透明なことが多く、マスコミに報道されていること以上に、はつきりしている事が無い状況です。国立大学法人化後の附属学校の具体像は示されていませんし、教育学部の再編統合についても進展は見られません。ただ、平成16年度から、国立大学が独立行政法人になる以上、附属学校も同時にその法人の附属機関になります。大学が業績評価を受けるように、附属学校もその設

置目的に応じて評価をされることとなります。つまり、大学がその附属学校をどのような教育研究目的のもとに設置し組織するかが問われていると言えましょう。その意味で、今後、大学が附属7校園をどのようにその教育研究に活かしようか、附属7校園の運命が決定されるとも言えるわけです。

しかしながら、一方で各附属校園はその独自の存在意義を高めるため、さまざまな努力を行っています。桃山地区附属学校園では、幼稚園、小学校、中学校が連携し、12年間の学びをつなぐ研究に取り組み、昨年秋季に研究発表を行いました。本校独自の取り組みとしては、約30年になる婦女子教育研究の成果を生かし、新しい学校づくりを進めたり、国際理解教育、環境教育や情報教育の成果を広く発信しようとしています。

そのような中で、学校外の方から学校運営にご意見をいただくため、2年前から学校評議員制度を始め、同窓会長様にも評議員になっていただいております。先行きが不透明な中であるからこそ、同窓会を通して、多くの卒業生の方から学校運営にご助言とご支援をいただければと願っております。今後とも何とぞ宜しくお願い申し上げます。

京都教育大学教育学部
附属桃山中学校
多羅岡拓也

京都教育大学附属桃山中学校同窓会

同窓会便り

前回の同窓会総会 「つゆ草の集い」報告



前総会は、去る2000年8月12日、ホテルグランビア京都に於いて、約200名の同窓生をお迎えし盛大に執り行われました。

開会宣言・新役員紹介・会長の挨拶・来賓の祝辞・事業報告が行われた後、元種子島宇宙センター所長、現宇宙開発事業団NASDA招聘研究員 菊山紀彦（きくやまとしひこ）氏の講演会「守ろう地球、めざそう地球」が行われました。国際宇宙ステーションのお話や環境問題などにも触れ、毛利衛宇宙飛行士の活躍も記憶に新しいところから、参加者一同興味深く聴講いたしました。

次のパーティーでは、まず、鏡開きに始まり、各期ごとテーブルでの談話の中、サクセス奏者で音楽家の塚本紘一郎氏のソロサク

クス演奏、11期メンバーのバンド五十雀（ごじゅうから）のライブが、花を添えました。

さらに校歌斉唱、ゲーム・アトラクションなどと続き、あつという間の3時間半でした。

散会後、クラス会へと繰り出す期もあり、同期の仲間との楽しいひと時を満喫されたのではないのでしょうか。

次回は、去る2000年8月12日、ホテルグランビア京都に於いて、約200名の同窓生をお迎えし盛大に執り行われました。

開会宣言・新役員紹介・会長の挨拶・来賓の祝辞・事業報告が行われた後、元種子島宇宙センター所長、現宇宙開発事業団NASDA招聘研究員 菊山紀彦（きくやまとしひこ）氏の講演会「守ろう地球、めざそう地球」が行われました。国際宇宙ステーションのお話や環境問題などにも触れ、毛利衛宇宙飛行士の活躍も記憶に新しいところから、参加者一同興味深く聴講いたしました。

次のパーティーでは、まず、鏡開きに始まり、各期ごとテーブルでの談話の中、サクセス奏者で音楽家の塚本紘一郎氏のソロサク



第五期 （昭和28年卒）

第五期では、毎年幹事を決めて小・中学同級生が集って楽しいひとときを過ごしています。

過去5年では、平成10年10月24日中華料理「福幸」にて
小森・森田・橋本・島本各先生他27名
平成11年10月23日「京都新阪急ホテル」にて
小森・島本両先生他27名

平成12年11月11日「からすま京都ホテル」にて
森田・島本両先生他34名
平成13年10月27日びわこ「ミシガン」にて
小森・森田・橋本・島本各先生他27名
平成14年10月19日下賀茂「英郎」にて
小森・森田・橋本・島本各先生他32名の出席で、それぞれ近況を語りながら親睦を深めています。また近年、食事もおしゃべりだけでなく、講演や見学を兼ねて感動・感激を味わう機会にもなっている同窓会を願っています。

第五期 竹村 光男



京都桃山村属小中学校同窓会 2001年10月27日 於 外輪船ミシガン



第十期
（昭和33年卒）

仲間ってすばらしい！

昨年11月23・24日に私共十期の「いちまる会」が遠征旅行をいたしました。関東と関西の間ということでは浜名湖の温泉を選びました。卒業以来45年振りでお友を浜松駅で見つけ抱き合うシーンもありました。参加者34人は中学時代にタイムスリップしたように文部省や大病院の院長等という肩書きも男性・女性も関係なく当時のあだ名で呼びあい、夜中まで笑い笑いの楽しい時間を過ごす中で附属桃山中学校の同級生の仲間の素晴らしさを改めて感じました。これは45年経った今だからいえるのかも知れません。

翌日はオルゴール館や世界にほころぶコレクション950点が展示されている浜松市楽器博物館を訪れ美しい音色に感動いたしました。あらこちらを歩くうちに頭に白いものが多くなった〇〇君に「荷物を持ってあげ



よう」等とやさしい言葉をかけてもらったり、女性の歩調にあわせてくれたり、「階段気をつけて」といたわられている人もいたり、幼なじみのぬくもりを感じうれしくなった場面もいっぱいありました。3年後には修学旅行の地信州への旅を約束し、それまでお互いに健康に気をつけて、又笑い笑いの珍道中ができますように今から楽しみにしております。

第10期 辻 梅子

第二十二期
（昭和45年卒）

22期のクラス会が昨年の10月13日、ホテルセントノーム京都にて開催されました。

この写真は、参加者の集合写真です。次回の幹事は、古川 裕、八木 孝、中村 恵子、阿部（北村） 章子さんです。

第22期 田中 真須美



第二十四期
（昭和47年卒）

24期の18名が、新年の食事をという呼びかけに応じて、2003年2月2日レストラン「キエフ」に集まりました。

卒業以来の顔ぶれもあり、なつかしさで一杯、遠方や転居で連絡できなかった人も多かったとのこと。四十代後半にさしかかり、日々の生活に追われながらも、こんな機会が増えればいいねと語り合いました。

第24期 進士 恭子



【同窓会役員】

| | |
|-----|-----------|
| 会長 | 12期 岡本 茂樹 |
| 副会長 | 7期 中谷 祐夫 |
| 理事 | 3期 竹村 一志 |
| | 4期 高石 卓 |
| | 8期 藤 悦子 |
| | 13期 百々 恵子 |
| | 15期 植松 恒夫 |
| | 16期 岡澤 崇子 |
| | 17期 宮門 崇子 |
| | 19期 藤川 重子 |
| | 20期 藤村 重子 |
| | 20期 上原 佳子 |
| | 21期 青井 晴雄 |
| | 22期 田村 康雄 |
| | 22期 田中真須美 |
| | 23期 中野 純子 |
| | 24期 森田 真司 |
| | 26期 進士 恭子 |
| | 26期 上野 浩也 |
| | 33期 小林 裕彦 |
| | 36期 奥島 雅子 |
| | 41期 藤田 匡史 |
| | 42期 小野 明保 |
| | 45期 松井 京子 |
| | 2期 関本 清子 |
| | 10期 辻 梅子 |

〈編集後記〉

同窓会の編集者から「つゆ草」の編集を引き継ぎ、いざ、編集を始めたい。経験はない、時間もない、センスもない、なんかない、という。本当に「つゆ草」なんかできるのだろうか、という不安とプレッシャーの中、何とか、発行にこぎつけることができました。

33期生 小林 裕彦